

主 題：私たちの務め

聖書箇所：コリント人への手紙第一 6章20b節

今日、私はここに立っていることを本当に感謝しています。私は先週もここから皆さんといっしょにみことばを学ぶ特権を与えられました。私がここずっと祈っていたことは、私の体調が守られて無事この働きを全うできるようにとそのことだけでした。だから、今ここに立っていることを本当に感謝しています。皆さんのお祈りのおかげだとそのように思っております。

A. 私たちの立場 20a節

私たちは先週、1コリント6：20の前半を学びました。そこで私たちは「私たちの立場」ということで学びをしました。前半はこのように書かれています。「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」。私たちクリスチャンは代価を払って買い取られたのです。その代価はイエス・キリストの十字架、死です。パウロがローマ書6章で教えるように、私たちは買い取られる以前は罪の奴隷でした。私たちは買い取られて立場が変わったのです。「神の奴隷」、「義の奴隷」、「従順の奴隷」、「主イエス・キリストの奴隷」となったのです。奴隷は主人に対して絶対的服従が求められています。ですから、私たちは神に従う者です。

B. 私たちの務め 20b節

今日はそのように立場が変えられた私たちに与えられている務めがどのようなものであるかを、この後半のところからいっしょに学んで行きたいと思います。後半はこのように書かれています。「**ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。**」。

1. 現わしなさい

1) すぐに現わしなさい

「**ですから**」とありますが、もちろん、これは前の部分を受けていることは皆さんよくお分かりです。「そういうわけだから、それゆえに」ということです。この「**ですから**」ということばは、最後の「**現わしなさい**」という動詞の時制に関連して深い意味を持っています。「**現わしなさい**」の時制は過去形の命令です。実は「**ですから～現わしなさい**」というのには「**すぐにやりなさい、すぐに現わしなさい**」という意味を含んでいます。前回も学びましたが、この6章のアウトラインの初めは「兄弟の中に争いがある」とみことばに書かれています。また、6章の後半では「不品行について」パウロは述べています。だから、争いがあり、また、不品行の問題があり、そのような状態にあったクリスチャンに対して、パウロは一刻の猶予もなく、立場の変えられた者がすぐにその務めを果たしなさいと教えるのです。

2) 私たちの全人格をもって現わしなさい

そして、「**ですから自分のからだをもって**」と続きます。「**自分のからだ**」とは「私たちの全人格」です。肉体だけでなく心も含みます。そして、私たちが生活している全領域です。それを含んだ私たちのからだです。直前の6：19では「**あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、**」と教えています。ということは、クリスチャンはこの真理と一致した行動を取らなければいけません。私たちのうちに住まれる聖霊が悲しまれることを私たちは為してはいけません。そのことはみことばが私たちに教えています。エペソ4：30にこのように書かれています。「**神の聖霊を悲しませてはいけません。**」と。私たちクリスチャンが継続して罪の中にある時には、私たちは神の栄光を現わすことはできないのです。

3) 神の栄光を現わしなさい

さて、「神の栄光」ということばを私たちはよく使います。先ほど賛美した歌詞にも出て来ました。聖書辞典には「神が神であるがゆえに持つ尊厳、卓越性、完全性をいう」と書かれてあります。意味は分かりますが、それはどういうものなのか、私たちには十分に理解できません。もし、教会学校の子もたちにこのことば通りに「神の栄光とは尊厳、卓越性、完全性」と教えても子どもたちは理解できないでしょう。恐らく、教会学校の先生方はこの「神の栄光」を「神のすばらしさ」ということばで子どもたちに教えるのではないのでしょうか。子どもたちはこのことばによって、神の栄光がどのようなものであるかを少しは理解できるかもしれません。

2. 神の栄光

1) 旧約聖書においては多くの箇所「神の栄光」が語られている

旧約聖書を開いてみると、至るところに「神の栄光」について書かれています。その中の一つだけ見ましょう。出エジプト 24：16-17です。「主の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。:17 主の栄光は、イスラエル人の目には、山の頂で燃え上がる火のように見えた。」と、このように主の栄光について語られています。

2) 新約聖書において神の栄光は主イエス・キリストと結びついて語られている

ヨハネの福音書 1：14に「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」と書かれています。また、ヘブル 1：3には「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、...」とあります。

3) 「神の栄光」は御子の誕生の時に現わされた

ルカ 2：9「すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。」

4) 「神の栄光」はイエスのしるしによって明らかにされた

ヨハネ 11：40「イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」、ラザロの復活のときのことです。ヨハネ 17：4には「あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました。」と書かれています。

5) 主イエス・キリストが神としての栄光を完全に現わすのは再臨のとき

マルコ 8：38「このような姦淫と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。」、テトス 2：13「祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。」

これらの聖書箇所は一部です。一人ひとり、他の箇所も調べていただきたいと思います。

3. 現わす

「自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい」、私たちは神の栄光がどのようなものであるのかを少しだけみことばから見ました。「現わしなさい」ということばで6章20節は終わっています。「現わす」とは国語辞典ではこのような説明がなされています。a) なかったもの、隠れているものを見えるようにする、あるいは出す、b) 世間に目立つようにする、c) 心の中にあるものを表現する、とこのような意味を持ったことばです。

1) 神の栄光を現わす

それでは神の栄光を現わすとはどういうことなのでしょう？それはクリスチャンが召してくださった神にふさわしく歩むことです。もっと具体的に言うならば、それは神のご性質を現わすような生き方をすることです。パウロは1テサロニケ2：12で「ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。」と書いています。また、エペソ4：1では「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」とこのように教えています。

また、栄光を現わす生き方にもう一つ付け加えるならそれは「かぐわしいかおり」です。クリスチャンの生き方は「かぐわしいキリストのかおり」を放つような生き方でなければいけません。IIコリント2：15でこのように教えられています。「私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。」、続く16節には「ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせるかおりです。このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう。」とあります。私たちはイエス・キリストのかぐわしいかおりを放つ者でなければなりません。私たちは「神の栄光」を現わしなさいと勧められています。そして、その具体的なことを今見ているのですが、それは神のご性質を現わした生活をするということです。では、「神のご性質」とは何でしょう？そのことについて少し学んでみましょう。

4. 神のご性質

「神の性質」については神学者によっていろいろなことばが書かれていますが、今日はそのうちの四つの性質について学んでみたいと思います。

1) 聖：(ヨハネ17：11、1ペテロ1：15-16、黙示録4：8、詩篇99：9、イザヤ6：3、レビ19：2)

まず一つは「聖」、「聖さ」です。この「聖さ」についても多くの箇所と言及されています。神が聖であることが多くのところで書かれています。ぜひ、この聖さについてもっと多くの聖書箇所を調べてみてください。

a) 神はすべての道徳的な悪と罪から完全に離れている方であり、これらを徹底的に憎む方である

b) キリスト者は神の聖さを基準、かつ目標にして聖化の道を歩むように求められている

私たちはこれらのことをみことばから教えられています。1ペテロ1：15-16「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。：16それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならぬ。」と書いてあるからです。」「あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい」とみことばは私たちがどのように歩むべきかをはっきりと教えています。また、この聖さについてパウロは1テサロニケ4：3で「神のみこころは、あなたがたが聖なることです。あなたがたが不品行を避け、」と教え、同じ1テサロニケ4：7では「神が私たちに召されたのは、汚れを行なわせるためではなく、聖潔を得させるためです。」と、パウロはこのように教えるのです。

しかし、皆さんひとり一人が自分の生活を考える時、私たちは聖い生活をしているかと問われるなら、私たちは本当に罪に負ける誘惑に負けるような弱い者です。しかし、感謝なことに、神は私たちの弱さをよくご存じなのです。1ヨハネ1：9にこのように書かれているからです。私たちにってはすばらしいみことばです。「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちにきよめてくださいます。」、私たちは何と恵まれた者でしょう？この神のご性質である聖、私たちはそれに基づいて生活することが求められています。皆さん、ぜひ、この神の聖さをひとり一人が自分の心の中に蓄えてくださるように私はお勧めします。

2) 義：(エズラ9：15、詩篇119：137、ヨハネ17：25、IIテモテ4：8、1ヨハネ2：2)

9)

二つ目は「神の義」です。これは別のことばで言うなら「神の正しさ」です。

a) 神がお定めになった神の律法が神の義を現わしている

このように言われます。詩篇19：7－8を見てください。「主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、主のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。:8 主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。」とこのように書かれています。神の律法は神の義を現わしています。

b) 神ご自身の行動はその義に基づいている

エレミヤ9：24「誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは主であって、地に恵みと公義と正義を行なう者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ。」

c) 神はその義に基づいて人間をさばかれる

IIテモテ4：8「今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

d) キリスト者はこの義を実践することを求められている

IIテモテ2：22にこのように書かれています。「それで、あなたは、若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」と、一番前にあるのは「義」です。また、ヨハネはヨハネ3：7、10でこのように言っています。「:7 子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけません。義を行なう者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。...:10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」。ヨハネは私たちに「義」についてこのように教えてくれます。

3) 真実：(申32：4、詩篇31：5・119：86、Iコリント10：13、IIテサロニケ3：3)

三つ目は「真実」です。

a) 神はまことの神である

エレミヤ10：10「しかし、主はまことの神、生ける神、とこしえの王。その怒りに地は震え、その憤りに国々は耐えられない。」、偶像礼拝について10：3－5にこのように記されています。「国々の民のならわしはむなしからだ。それは、林から切り出された木、木工が、なたで造った物にすぎない。:4 それは銀と金で飾られ、釘や、槌で、動かないように打ちつけられる。:5 それは、きゅうり畑のかかしのように、ものも言えず、歩けないので、いちいち運んでやらなければならない。そんな物を恐れるな。わざわざいも幸いも下せないからだ。」、Iコリント8：4「そういうわけで、偶像にささげた肉を食べることについてですが、私たちは、世の偶像の神は実際にはないものであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています。」、ヨハネ17：3「

その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」

b) 神は真理を語る方

テトス1：2「それは、偽ることのない神が、永遠の昔から約束してくださった永遠のいのちの望みに基づくことです。」、ヨハネ17：17「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」

c) 神は真実な方

Iテサロニケ5：24「あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをして下さいます。」

d) キリスト者は真実を語らなければならない

また、この真実を心から消し去ってはいけないとみことばは教えています。エペソ4：25でパウロ

は「ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部として互いにそれぞれのもだからです。」とこのように教えています。また、ピリピ4：8にはこのように私たちに説いています。「最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。」と。最初に「すべての真実なこと」とあり、それを「心に留めなさい」、心から消し去ってはいけない、心に残しなさいと、このようにパウロは言うのです。

4) 愛：(Iヨハネ4：7-8・16、IIコリント13：11)

私たちは神のご性質として「聖」、「義」、「真実」を見ました。そして、四つ目に「愛」について見たいと思います。この「愛」も聖書の至るところで書かれています。聖書箇所を挙げるなら1ページの全部が埋まってしまうでしょう。

a) ご自身の愛を人間に決定的な形で啓示された

しかし、皆さんよくご存じのヨハネの福音書3：16は神がご自身の愛を人間に決定的な形で啓示された箇所であると言われていています。子どもたちもよく知っているみことばです。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」。

b) 私たちクリスチャンの救いはこの愛による

ヨハネはIヨハネの至るところでこのことを私たちに教えています。Iヨハネ3：1には「私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです。——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。」とあります。同じ、Iヨハネ3：16には「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」とヨハネは記しています。Iヨハネ4：9で「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」と愛についてこのように説かれています。

c) 人間の愛=エロス 「～のゆえに」

さて、皆さん、神の愛は私たちが使う愛とは全然違います。人間の愛、私たちの愛は「～のゆえに」です。何かがあって私たちのプラスになり、それゆえに私たちは愛する。それは対象であるものの価値に引きつけられた愛です。

d) 神の愛=アガペー 「～にもかかわらず」

しかし、神の愛は違います。「それにもかかわらず」の愛です。私たちは前回そのことを私たちの立場というところで知ることができました。それは私たちは神に敵対する者であった者であったにもかかわらず、神は私たちを愛して、私たちを神の子どもとされたことです。神の愛、ルターはこの愛をこのように言っています。「泉のように吹き出し、あふれゆく愛」と。自分のものを分かち与える愛、自分を犠牲にした愛、これが神の愛です。

e) キリスト者は互いに愛し合うべきことが教えられている

そして、私たちはみことばからこの愛を実践するようにと教えられています。Iヨハネ3章と4章をぜひお読みください。ヨハネはそのことを私たちに教えています。また、私たちが兄弟姉妹同士互いに愛し合うだけでなく、世の人々に対してもこの愛を示していかなければなりません。

Iヨハネ3：11「互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。」

Iヨハネ3：16-17「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって

私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。:17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。」

1ヨハネ 4 : 11 「愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」

5.まとめ

私たちは2週間、1コリント 6 : 20 を学びました。

1) キリスト者は自分の全人格、また、その生活の全領域においてすぐに神のご性質である、聖、義、真実、愛にあふれた信仰生活を送ることを求められている。

それは、まさに自分のからだを通して神の栄光を現わすことであり、また、それは神のすばらしさを現わすことです。そして、そのことは私たちの周りにいる人たちが私たちの生活を見て、神の栄光が何であるのか、神のすばらしさが何であるのかを知る時となるのです。

2) 私たちが救われた目的は？

さて皆さん、私たちが救われた目的は何でしょうか？確かに、永遠のいのちをいただいて天国に行ける、このことは真実です。間違いではありません。しかし、そのことだけで私たちは手を挙げて喜んでいられるのでしょうか？みことばははっきりと私たちが救われた目的を教えてください。私たちはそのことを少し見てこの学びの終わりにつなげたいと思います。エペソ 2 : 8 - 10 を見てください。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。:9 行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。:10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」と書かれています。「私たちが良い行ないに歩む」、これが私たちが救われた目的です。

イエスは私たちクリスチャンの生活の模範をみことばを通して教えてください。マタイの福音書 5 : 14 - 16 「あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。:15 また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」。

3) キリスト者の務めの最も重要なことは？

さて、私たちクリスチャンの務めの最も重要なことは何でしょうか？それは私たちクリスチャンは私たち一人ひとりにとって魅力的な目的を達成することではありません。私たちの最も重要な務めは神の栄光、神がほめ称えられる、このことを求めるべきです。1コリント 10 : 31 でパウロはこのように教えてください。「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。」。私たち個人の栄誉の達成を求めることではないのです。

4) 1コリント 6 : 20 のまとめ

私たちは1コリント 6 : 20 からすばらしいことを教えられました。それは私たちの立場が変えられたことです。罪の奴隷から神の奴隷となったクリスチャンは、全き従順の思いをもって、自分の全人格と、また生活の全領域で、そして、私たちの全生涯を通して主人である神の栄光を現わすことを目指さなければなりません。また、それが私たちの苦しみや悩みとなってしまうはいけません。それが私たちの喜びとならなければならないのです。しかし、私たちは弱い者です。そのように働きたい、そのように生活をしたくとも誘惑に負けてしまう、罪に染まってしまう、そのような弱い者です。だから、私たちは主に祈りつつ、聖霊の助けによって、私たちの神の奴隷の務めをしっかりと果たして行かなければ

ならないのではないのでしょうか？今からすぐに！神の栄光を現わすために！

この2回のメッセージというすばらしい時間を私にくれた神に私は心から感謝をしています。また、このように体調も守られてこの2回の務めを全うできたことを心から感謝をしています。これも皆さんが祈ってくれたその祈りが聞かれたものだと感じています。近藤先生はまだお帰りではありませんから、来週は和智兄がメッセージをされますが、ぜひ皆さん、兄弟のために祈ってください。私たちはなかなか普段の生活の中で学びをする時間が短いのです。この時間を取ることが本当に困難なのです。だから、ぜひ兄弟のために祈ってください。そして、来週ともにこの場所でまた神をほめ称えるそのような時間が私たちに与えられることを期待しようではありませんか。